

ECBの副総裁人事にも注目

発表日：2018年2月16日(金)

～ドラギ後任人事の前哨戦～

第一生命経済研究所 経済調査部
主席エコノミスト 田中 理
03-5221-4527

◇ ECBの副総裁人事は、スペインのデギンドス経済・競争相とアイルランドのレーン中銀総裁の一騎打ち。順当に行けば、デギンドス氏が副総裁に選出され、レーン氏は来年5月に退任するプラート理事の後任としてチーフ・エコノミストの職を得そうだ。その場合、ドイツが悲願のECB総裁ポストを手に入れ、バイトマン連銀総裁が来年10月に退任するドラギ総裁の後任に納まる可能性が高い。利上げ局面でのドイツ出身総裁が他国の理解を得られない場合、オーストリア中銀のノボトニー総裁、フィンランド中銀のリーカネン総裁辺りが代替候補として考えられる。

日銀の正副総裁人事が固まったが、ユーロ圏でも5月に任期満了で退任するコンスタンオECB副総裁（ポルトガル出身）の後任人事が進められている。今回の副総裁人事と来年5月に退任予定のプラート理事（ベルギー出身）の後任人事は、2019年10月に退任するドラギ総裁（イタリア出身）の後任人事を占ううえで注目されている。総裁、副総裁、および4名の理事で構成されるECBの役員会メンバーは、出身国のバランスに配慮して選出されるのが通例だ（図表1）。過去のポスト配分では、①ドイツとフランスに必ず各1ポストが割り当てられ、②スペインとイタリアの両方か何れかに1ポストが割り当てられ、③4大国を除く残りのユーロ圏諸国に1以上のポストが割り当てられ、④同一国に2ポスト以上が割り当てられることはなく、⑤可能な限り、女性に1ポストが割り当てられてきた（詳しくは2017年5月26日付けレポート「そろそろポスト・ドラギも気になるところ」を参照されたい）。

副総裁候補に名乗りを上げているのは、スペインのデギンドス経済・競争相とアイルランド中銀のレーン総裁の2人。経済学者出身のレーン氏は当初、プラート理事の後任のチーフ・エコノミスト狙いと目されていたが、ユーロ圏発足以来のメンバー国で唯一ポストを獲得したことがないアイルランド政府の強い意向もあり、副総裁レースにも参戦した。副総裁人事は、2月19日のユーログループ（ユーロ圏の財務相会合）で検討され、翌20日の経済閣僚理事会（EUの経済・財務相で構成）の推薦に基づき、3月22・23日の欧州首脳会議で決定、欧州議会とECB役員会の意見を聴取したうえで、欧州理事会（欧州委員会の委員長と加盟国の首脳で構成）が任命する。スペイン政府に加え、ドイツやフランスなどがデギンドス氏を支持すると見られており、同氏の副総裁選出が有力視される。ただ、欧州議会やECBの一部関係者からは、デギンドス氏が中銀での職務経験がないことや現職閣僚の就任が中銀の独立性を脅かしかねないと、不安の声も聞かれる。他方、レーン氏は経済学者としての学術的な実績とアイルランド中銀総裁としての実務能力の双方が高く評価されており、副総裁に選出されない場合にも、プラート理事の後任としてチーフ・エコノミストに就く可能性が高い。仮に副総裁にレーン氏が選出された場合、中銀経験のないデギンドス氏がプラート理事の後任に就任する可能性は低く、その後に退任する別の理事ポストをスペインが獲得すると見られる。

ドイツはドラギ総裁の後任としてバイトマン連銀総裁の就任に意欲を見せているとされ、デギンドス氏の副総裁選出の見返りにスペイン政府の支持を取り付ける算段のようだ。その場合、2022年1月まで任期が残るドイツ出身のラウテンシュレーガー理事が任期前に退任することになる。フランスがこれまで通り、1ポストを割り当てられるのであれば、2019年11月に任期満了を迎えるクーレ理事（フランス出身）の後任ポストを手に入れることになろう。残る理事ポストは、バイトマン氏の総裁就任により任期前に退任するラウテンシュレーガー理事と2020年12月に退任するメルシュ理事（ルクセンブルク出身）の後任の2枠。小国が連続で理事ポストを獲得する可能性は低いとみられるほか、タカ派・ハト派間のバランスを取ると考えれば、一般にタカ派と目されるオランダ、エストニア、リトアニア、スロベニア、オーストリア、フィンランド、ラトビア辺りが1ポスト、ハト派と目されるイタリア、キプロス、ギリシャ辺りが1ポストを獲得すると考えるのが自然だろうか（図表2）。女性枠を重視するのであれば、現職中銀総裁で唯一の女性はキプロス中銀のゲオルガジ総裁。上記の条件に当てはまり現職の副総裁・理事に女性がいる中銀は、タカ派がスロベニア、フィンランド、ラトビア、ハト派がイタリアとなる。

利上げ局面でのバイトマン氏のECB総裁就任に他国の同意が得られない場合、初代総裁がオランダ出身のドイセンベルク氏に落ち着いたのと同様に、ドイツは自国に近いタカ派的な立場を採る国の出身者を総裁に据えようとするだろう。ECBの理事が各国中銀の副総裁や理事出身者になることが多いのに対し、過去3代のECB総裁は何れも中銀総裁の経験者。ユーロ圏発足以来、金融政策はECBに一元化され、各国中銀に金融政策運営の権限はない。19ヶ国の中銀総裁と6人の役員会メンバーを束ねるECB総裁に、金融政策に直接携わった経験がないのは心許ない。ECBの理事会メンバーとして金融政策運営に携わっている各国中銀総裁からECB総裁が選ばれる可能性がある。この際、バルト三国や旧共産諸国の出身者がECBトップに就任することが広範な支持を得られるのかは不透明だ。また、オランダは初代総裁を輩出済み。となると、残る有力な候補は、オーストリア中銀のノボトニー総裁、フィンランド中銀のリーカネン総裁辺りとなるだろうか。

（図表1）ECB理事会メンバーの変遷と出身国

	98	99	00	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21			
総裁	ドイセンベルク(蘭) 98/6-03/10					トリシェ(仏) 03/11-11/10					ドラギ(伊) 11/11-19/10																
副総裁	ワウエ(仏) 98/6-02/5					バハデモス(ギリシャ) 02/6-10/5					コンスタンシオ(ポルトガル) 10/6-18/5																
理事・経済担当	イッソク(独) 98/6-06/5					シュタルク(独) 06/6-11/12					ブレート(ベルギー) 11/6-19/5																
理事	ハマライネン(フィンランド) 98/6-03/5					トウンベルク・ケレル(オーストリア) 03/6-11/5					アスマッセン(独) 12/1-14/1					ラウテンシュレーガー(独) 14/1-22/1											
理事	バトア・ショッパ(伊) 98/6-05/5					ビニスマキ(伊) 05/6-11/12					クーレ(仏) 12/1-19/12																
理事	トミンゴ・ソラン(西) 98/6-04/5					ゴンザレス・パラモ(西) 04/6-12/5					メルシュ(ルクセンブルク) 12/12-20/12																

注：色分けは、赤：ドイツ、青：フランス、緑：イタリア、紫：スペイン、橙：オランダ、水色：その他、灰色：未定
出所：欧州中央銀行資料より第一生命経済研究所が作成

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

(図表2) ECBの正副総裁・理事ポストの配分に影響しそうな要素

	各国中銀の正副総裁・理事内の女性の数	過去のポスト(注)	今回ポストを獲得した場合	ユーロを採用した年	タカ派・ハト派の目安	次期ポストの獲得可能性
ドイツ	1人	①②③	連続	1999年	タカ派	◎
オランダ	なし	①正	①以来	1999年	タカ派	
エストニア	なし	なし	初	2011年	タカ派	
リトアニア	なし	なし	初	2015年	タカ派	
スロベニア	1人	なし	初	2007年	タカ派	
オーストリア	なし	②	②以来	1999年	タカ派	
フィンランド	1人	①	①以来	1999年	タカ派	
ラトビア	1人	なし	初	2014年	タカ派	
スロバキア	なし	なし	初	2009年	?	
ルクセンブルク	なし	③	連続	1999年	?	×
マルタ	なし	なし	初	2008年	?	
アイルランド	なし	なし	初	1999年	?	◎
ベルギー	1人	③	連続	1999年	ハト派	×
フランス	1人	①副②正③	連続	1999年	ハト派	◎
スペイン	2人	①②	②以来	1999年	ハト派	◎
ポルトガル	なし	③副	連続	1999年	ハト派	×
イタリア	1人	①②③正	連続	1999年	ハト派	
キプロス	1人(総裁)	なし	初	2008年	ハト派	
ギリシャ	なし	②副	②以来	2001年	ハト派	

注：①：初代、②：二代目、③：三代目、正：総裁、副：副総裁

フランスはノワイエ副総裁退任後、トリシェ総裁就任までの短期間ポストを失った

出所：第一生命経済研究所が作成

(図表3) ECB役員会メンバーの出身国の組み合わせ予想

	現在	スペインが副総裁の場合	アイルランドが副総裁の場合	ドイツ以外の総裁の場合
総裁	イタリア	ドイツ	ドイツ	オーストリアかフィンランド
副総裁	ポルトガル	スペイン	アイルランド	スペイン
理事(チーフ・エコノミスト)	ベルギー	アイルランド	タカ派寄り	アイルランド
理事	ドイツ	タカ派寄り	スペイン	ドイツ
理事	フランス	フランス	フランス	フランス
理事	ルクセンブルク	ハト派寄り	ハト派寄り	ハト派寄り

出所：第一生命経済研究所が作成

以上